

## イチゴハダニゼロを目指す(第2回)

イチゴにおけるハダニ防除は、育苗期から本圃初期にハダニ密度を限りなくゼロに近づけることが、防除効果を高めるポイントです。今回は、「推奨防除プログラムの提案」と「適正な散布水量の順守」の重要性について報告しました。

今回は、「推奨防除プログラム」を実施した実証試験(2020-21年)の結果について報告します。

### 1) ハダニゼロを目指す 推奨防除プログラム (育苗期～本圃初期)

防除時期	天敵放飼・薬剤防除等	防除のポイント
5月上旬	アグリメック X1,000	必須防除
5月中旬	ミヤコバンカー 100個/10a分苗	前年ハダニ多発圃場のみ
6月中旬	気門封鎖剤	臨機防除(ハダニスポットある場合)
6月下旬	グレーシア乳剤 X2,000	必須防除(6月下旬散布厳守)
7月中旬	気門封鎖剤+卵活性有するダニ剤	必須防除(抵抗性の有無を考慮して選択)
8月中旬	気門封鎖剤+卵活性有するダニ剤	必須防除(抵抗性の有無を考慮して選択)
8月下旬	アグリメック X1,000	必須防除
9月上旬	モベントフロアブル X250 25ml/株 灌注処理	必須防除
9月中旬	気門封鎖剤	臨機防除(ハダニスポットある場合)
10月上旬	ダニオーテフロアブル X2,000	必須防除
10月中旬 ～11月上旬	ミヤコバンカー 100個/10a (畝マルチ展張直後)	必須防除(ハダニスポットある場合は200個/10a+チリカブリダニ(スポット放飼))

ハダニ密度をゼロに近づけるためには、葉裏への十分な薬剤付着が絶対条件となりますので、散布水量に注意しましょう

育苗期：60L～100L/子苗 6000株 本圃：250L～300L/10aが

ミヤコバンカー設置後、外部から持ち込まれたハダニによりハダニスポットが出ることがあるので、発生に気づいた時点ですぐに気門封鎖剤をスポット散布しましょう。

## 2) 推奨防除プログラムによる実証結果(2020-21年)報告

育苗期から本圃初期の“ハダニゼロを達成”し、“ミヤコバンカー”を設置することで、その後ハダニスポットが発生した場合も、**気門封鎖剤等のスポット散布のみで**、ハダニ密度を低い状態に維持できることが実証されました。今回は実証結果の1事例を紹介します。

<育苗期～本圃初期のハダニ指数> ミヤコバンカー**設置時**、ハダニゼロを達成。

散布日/調査日	ハダニ指数	薬剤散布(ハダニ対象)	希釈倍率	散布水量
5/13	0.00	アグリメック	X1000	親株散布
7/7	0.00	グレーシアEC	X2000	<b>100L</b> /子苗6000株
8/18	-	アグリメック	X1000	<b>100L</b> /子苗6000株
8/30	0.00	モベントSC	X500	50ml/株
10/5	0.00	-	-	-
10/15	-	ダニオーテSC	X2000	<b>280L</b> /10a
10/23	<b>0.00</b>	ミヤコバンカー	-	100個/10a

<本圃のハダニ指数> ミヤコバンカー**設置後**、ハダニ発生を低い状態で維持。

調査日	ハダニ指数		薬剤散布(ハダニ対象)
	本圃バンカーシート設置	※育苗期+本圃バンカーシート設置	
11/27	<b>0.00</b>	0.00	追加散布なし
12/22	0.00	0.00	
2/4	0.00	0.00	
4/23	0.29	0.00	

※ハダニ指数の算出  
 ■ 圃場を20-30株毎に区分し、ハダニが発生した場合は指数(5段階)を測定。  
 ■ 圃場全体ハダニ指数 = 平均ハダニ指数 × ハダニ発生区画数 / 全区画数

## 補足) ミヤコバンカーについて

動画はこちら!



<https://www.youtube.com/watch?v=ZzH4YvBhYKk>